

## —編集後記—

本号と次号で特集「最近の地下水研究」をお届けします。

もう30年近く前の私事で恐縮ですが、建設会社を辞めて大学院に入学した直後、指導教官から「研究テーマはどうする？」と聞かれ、即座に「地下水に関する研究がしたい」と返答しました。幸いにして、ちょうどその頃、科学技術庁（当時）から「降積雪対策の高度化に関する研究」のサブテーマ「不飽和帯への熱損失の定量化に関する研究」が研究室に委託されていたので、指導教官からこのテーマで纏めるよう勧められました。委託研究のテーマは地下帯水層への熱エネルギー貯留に関するもので“地下水に関する研究”そのものでした。しかし、サブテーマ自体は土壌カラム中の熱・水同時移動に関する研究で“土壌物理学”の範疇に思えたので、無知な私は「これは土壌物理では」と、やや疑問符をつけて尋ねました。その時の指導教官の一言、「まあ、土壌物理で対象となる飽和土壌帯もマクロにとらえれば地下水だから」。

私は「なるほど！」と納得し、このテーマを修論の研究課題とし、今日に至ります。実は、私自身が「地下水学と土壌物理学の接点」で研究を開始していたことに気づきました。誤解のないように言っておきますが、私は決して土壌物理学が嫌いであったわけではありません。ちなみに、このサブテーマを研究室に紹介してくださったのは、本号でご執筆いただいている地下水の専門家、藤縄克之先生でした。

特集「最近の地下水研究」以外にも、自主投稿論文、講座「古典を読む」、国際土壌年特集「土粒子」とワクワクするような内容が満載です。読者の皆さんには是非すべての記事に目を通していただくことを切望します。

もちろん、脈々と連なる地下水ワールドへ、次号も乞うご期待！

諸泉利嗣（編集委員）

### 土壌物理学会

事務局構成	会 長	長 裕幸	(佐賀大学)
	副 会 長	江口 定夫	(農業環境技術研究所)
	庶務幹事	中野 恵子	(農研機構 九州沖縄農業研究センター)
		宮本 英揮	(佐賀大学)
	編集幹事	渡辺 晋生	(三重大学)
	会計幹事	近藤 文義	(佐賀大学)
	会計監査	中川 啓	(長崎大学)
編集委員会	委 員 長	徳本 家康	(佐賀大学)
	委 員	取出 伸夫	(三重大学)
		小杉 賢一朗	(京都大学)
		千葉 克己	(宮城大学)
		釣田 竜也	(森林総合研究所)
		中川 啓	(長崎大学)
		中辻 敏朗	((地独) 北海道立総合研究機構)
		橋本 洋平	(東京農工大学)
		諸泉 利嗣	(岡山大学)
		宮本 輝仁	(農研機構 農村工学研究所)
	望月 秀俊	(農研機構 近畿中国四国農業研究センター)	
	吉田 修一郎	(東京大学)	